



産業建設

常任委員会

産業建設常任委員会に付託を受けた
議案について審査した結果、
主に下記内容が議論されました。

付託
議案5件
報告6件

- 委員長／木下 敬夫
- 副委員長／佐藤 喜典
- 委員／久保 吉彦、杉木 勉、垣内 武司、高僧 弘、今田 勇雄

農地中間管理機構について

- 問** 農地中間管理機構事業は周知徹底しているのか。
- 答** 圃場整備の説明とともに周知を図っているところ。
- 問** 以前に耕地整理も終わり、現在事業に関わっていない集落にはほとんど知られていないのでは。
- 答** 圃場整備の終わったところは、もう一度汗をかき必要がある。圃場整備をしていない地域は、一体誰がやるのか問題で、なかなか集積を進めるのは難しい。
- 問** 国はこの取り組みを全農地でやろうとしており、七尾市全域で考えてみても大変なこと。その辺りをどう考えているのか。
- 答** 基本的にはこの制度の活用を促すのが第一。すべての集落がこれを使えるかという集落が考えることなので難しいところはあるが、地域が少しでもやろうという意識になってもらえるよう、今後も地域の説明会などで理解を求めていきたい。

例月常任委員会 4月14日(火)

岩屋浄水場管理センターほか現地視察

岩屋浄水場管理センターにおいて、上下水道課から七尾市水道事業についての説明を受けた。七尾地区と能登島地区は県水と地下水、中島地区は県水と地下水と河川水、田鶴浜地区は地下水を使用している。白山市の手取川から各家庭へ水が送水されるまでの行程やその施設の概要などの説明を受けた後、中央監視室と配水管理棟内を視察した。その後中島町地内にある鹿島台送水場へ移動。老朽化した送水場の更新についての説明を受けた。また、その場所は市指定史跡「中島水道跡」があり、史跡となっている場所なので草刈りなど管理をしっかりするよう要望した。



県水の責任水量の引き下げについて

- 問** 県水の責任水量の引き下げに伴い、会計の負担が軽減され、その分を水道施設の機能強化などに充てるということだが、具体的な内容は。
- 答** 責任水量の引き下げによって、8千万円ほど受水費の歳出が減る。それに伴い、自己水の汲み上げが必要となり動力費や薬品費などを相殺した7千5百万円ほどになり、その分を老朽管の更新などに充てている。
- 問** 改修の遅れていた分については、早く対応できるのか。
- 答** 調査した結果によると、石綿管が100キロほどあり、そのうち26年度までに80キロが終わっている。残り部分は前倒ししながら老朽管の更新と下水工事に併せて石綿管の入れ替えを行っているところである。

例月常任委員会 5月19日(火)

鳥獣被害対策における現地視察(能登島地内)

1月に鳥獣被害対策についての説明を受けていたが、今回は実際にイノシシ被害のあった現場へ出向き、被害対策として行われている電気柵の設置状況を確認してきた。市内全域に被害が広がっているなか、能登島地内でも多くの被害があり、電気柵を設置しているところが増えている。電気柵は被害のあった場所に対し設置助成があるが、被害のあった場所の近くでも被害がなければ助成がないということによって不満の声も聞かれる。被害を未然に防ぐことも大切だが、対応が難しい。少しでも被害が広がらないために、今後とも十分な対応をするよう市の担当者へ要望した。



教育民生

常任委員会

教育民生常任委員会に付託を受けた
議案について審査した結果、
主に下記内容が議論されました。

付託
議案6件
報告6件

- 委員長／山添 和良
- 副委員長／高橋 正浩
- 委員／松本 精一、伊藤 厚子、大林 吉正、石川 邦彦、中西 庸介、木下 孝輝

放課後児童クラブについて

- 問** ある放課後児童クラブに通わせたいと思っていたが断られたという話を聞いた。事実なのか。
- 答** そこは施設が狭く、ギリギリでこれ以上児童を増やすことができない状況である。
- 問** 小学校区に1施設ということだが、面積要件もあると思うが、そういった場合、近くにそのような施設はあるのかないのか。
- 答** 空きスペースを活用できないか、現在検討中。また、小学校区に2施設あるところもあるが、これは過去に特段の事情があったもの。
- 問** 指導員は足りているということだが、本当に足りているのか。
- 答** 現在は、全児童クラブでの指導員は足りているが、場所によっては余裕のない児童クラブも数か所ある。

例月常任委員会 4月20日(月)

土曜授業について

常任委員会は、今年4月から実施される土曜授業について、教育委員会から説明を受けた。教職員の負担や、外部講師が活用できるようなネットワーク作り、各学校の取り組みなど様々な角度からの質問や意見が出された。また、教育長は、土曜授業を月1回程度実施し、しっかり検討して地域の力をつけたいと抱負を述べていた。その後、教育研究所を視察し、所長より教育支援センター「わかたけ」教室の活動について説明を受け、施設を見学した。改めてこのセンターの必要性を確認した。



七尾市教育研究所

小中学校管理費の減額について

- 問** 小中学校スクールバス運行管理費について、大きく減額している原因は。
- 答** 運行委託料と車両管理費や燃料費を分けて考えた場合、燃料費と車両管理費が思ったほどからなかったことで約450万円の不要額が出た。運行委託料にしても約200万円の不要額が出た。
- 問** 小中学校の特別支援教育支援配置事業の減額については、支援員の数が減ったことによるのか。それとも別の要因か。
- 答** 支援員の人数は減っていない。交通費や臨時職員など諸々の分で減額になった。

例月常任委員会 5月20日(水)

健康福祉部の取り組みについて

新年度に入って約1ヶ月半が経過し、業務に対しての取り組みも見えてきたところなので、今回は平成27年度健康福祉部の取り組みについて、地域包括ケアシステムの構築、七尾市プレミアム商品券、生活習慣病の発症と重症化予防、マイナンバー制度について、各課長より説明を受けた。委員からは、地域推進員や女性が活躍してほしいという要望や、ボランティアポイント制度も人材養成の受け皿にならないかなどの質問があった。市民生活に直結する事業だけに、スムーズに計画が進捗することを望んでいた。